

称賛式（3月）

2021. 2. 28

3年生の皆さんにとっては、最後の称賛式となりました。3年間お疲れ様でした。

まず、各連盟・協会等の優秀選手として大勢の皆さんを称賛できて嬉しく思います。3年間努力を継続することによって得た様々なものは、大学進学後も競技を続けるかどうかにかかわらず、今後の人生を送る上での礎になり、必ずや生涯にわたって皆さんの心の支えになると思います。後輩の指導、OB会の活動等も含めて、今後とも松山北高校をよろしく願います。

また、多読賞の三浦さん・林さん。本と共に生きる、落ち着いた高校生活を送ったことは素晴らしいことだと思います。直近の学生生活実態調査によると「読書時間ゼロ」の大学生が過半数となり、集中力も確実に低下しているそうです。情報を大量に消費するだけでは、深く学び心豊かな人生を送ることはできません。文化祭の閉会式で述べたように「今すぐ役に立つかどうか」といった即効性は期待してはいけません。心が磨かれた結果として、人生に次々と素晴らしいことが起こるようになるのです。どうか本が側にある素敵な人生を送っていただきたいと思います。

さて、明治9年、北大の前進である札幌農学校の開校式が挙行された時、初代校長に就任したクラーク博士は、すでに用意されていた校則の条項をすべて抹消し、「Be gentleman」一条のみとしたという逸話があります。皆さんも明日、校則からは解放されますが、簡潔で自由なルールは、自分で判断するという困難さと厳しい責任を伴います。

渡辺憲司氏は、その著書において「Be gentleman」ということについて

「愚直に真っ正直に生きて、自分に誇りを持ち、そしてきちんと身を正す」

「自分がどういう形で生きていくかの輪郭を持ち、それを大切にする」

「周囲の外見的な規則や虚飾や虚勢を削ぎ落とし、自信を持ってシンプルに生きる」

「厳しさと優しさが共存している」と述べています。

どうか、自分の信じる道を、凜と、そして堂々と歩んでください。また、チャンドラーの小説に『タフでなければ生きていけない。優しくなければ生きていく資格がない。』という有名な台詞がありますが、正義の心を持ち、弱きものを守り通す人であってほしいと思います。

最後に、明日の卒業式は、昨年に引き続いて制約の中で実施することを余儀なくされましたが、コロナ禍の中、辛抱強く戦い続けた皆さんを送る気持ちは、例年にも増して高まっています。皆の気持ちを一つにして、素晴らしい卒業式を創り出しましょう。どうぞよろしく願います。